

26年度大学入試センター試験 平均点情報

総合点は、文系 5点前後、理系 15点前後のアップか

志望校合格のポイントは“堅実な出願”から

進路情報研究センター ライセンスアカデミー／大学新聞社 / 2013/1/23

1月22日に大学入試センターより、「平成26年度大学入試センター試験（本試験）平均点等一覧（中間集計）」の発表があった。その発表をもとに今後の入試戦線の動き等を推測した。

〈中間集計〉平成26年度センター試験（本試験）平均点等一覧

平成26年1月22日大学入試センター発表

教科名	科目名	平成26年(中間)		平成25年(中間)		平均点の 対前年差	平成25年(最終)		
		受験者数	平均点	受験者数	平均点		受験者数	平均点	
国語(200点)	国語	230,826	97.6	212,385	98.8	▲ 1.2	516,153	101.0	
地理歴史 (100点)	世界史A	665	47.9	695	46.9	1.0	1,491	46.7	
	世界史B	41,637	70.2	39,924	64.1	6.1	90,071	62.4	
	日本史A	1,132	47.9	1,135	41.5	6.4	2,651	41.6	
	日本史B	67,473	67.9	66,535	63.3	4.6	159,582	62.1	
	地理A	940	54.1	889	51.1	3.0	2,253	50.1	
	地理B	52,786	71.5	46,103	63.0	8.5	143,233	61.9	
公民 (100点)	現代社会	26,915	59.9	26,426	61.7	▲ 1.8	83,471	60.5	
	倫理	13,311	61.8	13,082	58.7	3.1	36,151	58.8	
	政治・経済	20,764	55.7	20,291	57.3	▲ 1.6	51,888	55.5	
	倫理、政治・経済	20,951	69.0	19,960	61.9	7.1	53,295	60.7	
数学	数学① (100点)	数学Ⅰ	3,425	41.7	3,228	43.6	▲ 1.9	8,135	40.8
		数学Ⅰ・A	173,785	63.5	140,998	53.1	10.4	398,447	51.2
	数学② (100点)	数学Ⅱ	3,021	33.8	2,577	29.1	4.7	6,970	26.2
		数学Ⅱ・B	155,061	56.5	123,735	58.5	▲ 2.0	359,486	55.6
		工業数理基礎	3	38.0	7	25.6	12.4	25	33.4
		簿記・会計	364	60.7	259	36.2	24.5	1,208	38.4
情報関係基礎	115	60.9	128	59.2	1.7	608	57.3		
理科 (100点)	理科総合A	2,937	51.0	3,412	49.3	1.7	12,805	44.8	
	理科総合B	4,343	55.0	4,004	57.8	▲ 2.8	17,310	54.4	
	物理Ⅰ	74,068	63.0	60,896	62.7	0.3	159,644	62.7	
	化学Ⅰ	101,490	70.7	84,060	64.4	6.3	231,945	63.7	
	生物Ⅰ	69,286	55.5	62,686	63.0	▲ 7.5	195,815	61.3	
	地学Ⅰ	7,310	52.3	6,591	69.5	▲ 17.2	17,853	68.7	
外国語	筆記 (200点)	英語	244,100	121.6	219,056	120.8	0.8	535,835	119.2
		ドイツ語	90	150.5	74	146.9	3.6	123	151.5
		フランス語	102	162.8	113	152.0	10.8	151	150.6
		中国語	296	150.5	246	163.3	▲ 12.8	445	159.3
		韓国語	103	145.3	110	141.6	3.7	180	140.3
	リスニング(50点)	英語	244,018	33.5	215,032	31.6	1.9	529,440	31.5
	筆記+リス(200点)	英語	—	124.1	—	121.9	2.2	—	120.5

(注)平均点は、大学入試センター発表の数値を小数点第2位で四捨五入した。

「筆記(200点)+リスニング(50点)」は、それぞれの得点率をもとに200点に圧縮して大学新聞社で算出。

▲はマイナス(-)の意味。プラス(+)は省略。

〈今後の予定〉

1月24日(金) 得点調整実施の有無の発表(予定)

1月27日(月)～2月5日(水) 出願受付

基幹科目と言われる3教科の対前年度得点差は、

国語 ▲1.2点、数学(数学Ⅰ・A+数学Ⅱ・B) +8.4点

英語(筆記+リスニング、200点換算) +2.2点

で、合計では+9.4点。

理科の受験は、文系では生物Ⅰ(対前年度▲7.5点)が多い。一方、理系では物理Ⅰ(同+0.3点)と化学Ⅰ(同+6.3点)が多い。加えて理系受験者の多い地理Bが対前年度+8.5点とアップした。そのため、総合平均点(900点満点)では文系と理系でアップ幅が10点前後の差が生じる。

大手3予備校の自己採点集計からの結果は以下の通り。

	文系 5教科7科目	理系 5教科7科目
河合塾	534点(+4点)	566点(+16点)
駿台・ベネッセ	532点(+2点)	568点(+13点)
代々木ゼミ	535点(+4点)	568点(+16点)

※「文系5教科7科目」=外国語・国語・数学(2科目)・地歴公民(2科目)・理科(1科目)

「理系5教科7科目」=外国語・国語・数学(2科目)・地歴公民(1科目)・理科(2科目)

※各予備校のホームページより。

(河合塾1/21現在、駿台・ベネッセ・代々木ゼミナール1/22現在)

()内は対前年度得点差。

このデータや自己採点結果をもとに、受験生は1月27日(月)から2月5日(水)の間に出願する。センター試験の1ランクは約20点と言われる。したがって、国公立大の出願傾向は、総合平均点のアップの影響から、特に理系受験生の心理は“強気の出願”に傾くと推測される。しかし、総合平均点のアップ・ダウンと出願の関係は、

平均点のダウン⇒“強気の出願”、平均点のアップ⇒“堅実な出願”

がセオリーである。平均点のアップは全体的な底上げになっているため、そうした時こそ“堅実な出願”をすることで出願校合格につながる。

私立大の入試戦線はどうなるであろうか。25年度は平均点の大幅ダウンにより、一般入試では個別学力検査方式が7.5%も志願者数が伸びたのにセンター試験利用入試方式は2.0%しか伸びなかった(代々木ゼミナールのホームページより)。26年度入試は個別学力検査方式が受験生数の減少により約4%志願者数が減少すると推測される。逆にセンター試験利用入試方式は現行教育課程最後の入試(数学と理科)だけに25年度並みの志願者を集めるだろう。

27年度は受験生数が再び増加に転じるため、26年度入試で志望校合格を決めたいものだ。3月期入試までを視野に入れた併願作戦で合格を勝ち取ってほしい。